

当院における特発性心室細動蘇生例の特徴 —J 波を有する心電図の特徴—

大久保公恵 渡辺一郎 奥村恭男 園田和正
永嶋孝一 真野博明 小船雅義 小船達也
中井俊子 國本 聡 平山篤志

【背景】J波は心電図上しばしば認められる所見であり，その予後は比較的良好と考えられていた．しかし，不整脈の原因となるともいわれており，QRSの早期再分極と心室細動(VF)，突然死との関連も報告されている．【目的】当院における特発性心室細動(IVF)の特徴につき，検討した．【対象】1979～2011年でVFが確認，もしくは心肺停止蘇生例で電気生理学的検査(EPS)を施行した患者17例(全例男性，平均年齢40歳)．心機能は良好で，全例に冠動脈造影を施行し，虚血は否定されている．【方法】J波は12誘導心電図で下壁，側壁誘導にノッチを認めるものとした．14例で加算平均心電図(LP)を施行した．EPSは心室期外刺激を右室心尖部と右室流出路からS3まで行い，VFの誘発を試みた．【結果】J波を認めるIVFは11例で，下壁誘導8例，側壁誘導1例，両方が2例であった．Brugada症候群が3例，正常心電図を呈する症例が3例であった．LP陽性は6/14例で認め，QT延長，短縮は認めなかった．EPSでは16/17例(94%)でVFが誘発された．15例でICDの植込みが施行されたが，その後の経過観察で適切作動，心イベントの発生はない．【結語】基礎心疾患のないVF症例では，早期再分極異常であるJ波症候群の存在を考える必要がある．

Keywords

- 特発性心室細動
- J波
- 早期再分極

日本大学医学部附属板橋病院循環器内科
(〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1)

Clinical Characteristics of Idiopathic Ventricular Fibrillation in Patients with J Wave : Single Center Experience

Kimie Ohkubo, Ichiro Watanabe, Yasuo Okumura, Kazumasa Sonoda, Koichi Nagashima, Hiroaki Mano, Masayoshi Kofune, Tatsuya Kofune, Toshiko Nakai, Satoshi Kunimoto, Atsushi Hirayama